



A-S801

プリメインアンプ

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

- 本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。
- 保証書は、「お買い上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

取扱説明書

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずよくお読みください。

必ずお守りください

人への危害や財産への損害を防止するために、ここに示した注意事項を必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

- 点検や修理は、必ず次の窓口にご依頼ください。
 - お買い上げの販売店
 - ヤマハ修理ご相談センター
- 本製品は一般家庭用機器です。生命や高額財産などを扱うような高度な信頼性を要求される用途に使用しないでください。
- 不適切な使用や改造による、あらゆる損失については補償はいたしかねますので、ご了承ください。

記号表示について

本製品や本文書に表示されている記号には、次のような意味があります。



注意喚起を示す記号



禁止を示す記号



行為を指示する記号



警告

「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

異常に気づいたら



必ず実行

次のような異常が発生した場合、すぐに電源を遮断する。

- 電源コード・プラグが傷んだ場合
- 機器から異臭、異音や煙が出た場合
- 機器の内部に異物や水が入った場合
- 機器に亀裂、破損がある場合
- 使用中に音が出なくなった場合

電源を遮断するための操作は次のとおりです。

- 機器の電源を切る
- 電源プラグをコンセントから抜く

そのまま使用を続けると、火災・感電・故障の原因になります。至急、点検や修理をご依頼ください。

電源



禁止

電源コードが破損するようなことをしない。

- ストーブなどの熱器具に近づけない
- 無理に曲げたり、加工しない
- 傷つけない
- 重いものをのせない
- ステーブルで止めない

芯線がむき出しのまま使用すると、火災・感電・故障の原因になります。



禁止

落雷のおそれがあるときは、本製品や電源プラグやコードに触らない。

感電の原因になります。



必ず実行

電源は本製品に表示している電源電圧で使用する。

誤って接続すると、火災・感電・故障の原因になります



必ず実行

電源の供給には、必ず次のものを使用する。

- 付属の電源コード

火災・やけど・故障の原因になります。付属の電源コードは日本国内専用（125Vまで）です。



禁止

次の付属品をほかの機器に使用しない。

- 電源コード

火災・やけど・故障の原因になります。



必ず実行

電源プラグを定期的に確認し、ほこりが付着している場合はきれいに拭き取る。

火災・感電の原因になります。



必ず実行

電源プラグは根元まで確実に差し込む。

感電やショートによる火災・故障の原因になります。



必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。電源を切った状態でも電源プラグをコンセントから抜かないかぎり電源から完全に遮断されません。



必ず実行

雷が鳴り出したら、早めに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

火災・感電の原因になります。



必ず実行

長期間使用しないときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

火災・感電の原因になります。

分解禁止



禁止

本製品を分解したり改造したりしない。

火災・感電・けが・故障の原因になります。

水に注意



禁止

- 浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところや水がかかるところで使用しない。

- 本製品の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。

内部に水などの液体が入ると、火災・感電・故障の原因になります。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。また、ぬれた手で本製品を扱わない。

感電・故障の原因になります。

火に注意



禁止

本製品の近くで、火気を使用しない。

火災の原因になります。

取り扱い



禁止

本製品を落としたり、強い衝撃を与えたりしない。

火災・感電・故障の原因になります。

電池



禁止

- 電池を飲み込まない。
- 電池は子供の手の届くところに置かない。

誤って飲み込むおそれがあります。また、電池の液漏れなどによる失明・炎症を起こすおそれがあります。電池収納部がしっかり閉まらない場合は、本製品の使用を中止し、子供の手の届かないところに保管してください。電池を飲み込んでしまった場合は、ただちに医師の診断を受けてください。電池を飲み込んだ場合、2 時間以内に深刻な化学やけどや体内組織の融解が発生し、死亡するおそれがあります。



禁止

- 電池を火の中に入れない。
- 電池を日光や火のような高温に晒さない。

破裂により、火災・けがの原因になります。



禁止

電池が液漏れした場合は、漏れた液に触れない。

液に触れると失明・化学やけどなどの原因になります。液に触れた場合は、すぐに水で洗い流し、医師にご相談ください。



禁止

- ・ 指定以外の電池を使用しない。
- ・ 電池は新しいものと古いものを一緒に使用しない。
- ・ 種類の異なる電池を一緒に使用しない。
- ・ + / - の極性表示とは異なった方向に電池を入れない。
- ・ 電池を分解しない。
- ・ 使い切りタイプの乾電池は充電しない。

破裂や液漏れにより、火災・やけど・失明・炎症・故障の原因になります。液に触れた場合は、すぐに水で洗い流し、医師にご相談ください。



禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。電池がショートし、破裂や液漏れにより、火災・失明・けがの原因になります。



必ず実行

長時間使用しない場合や電池を使い切った場合は、電池をリモコンから抜いておく。

電池から液漏れが発生し、失明・炎症・故障の原因になります。



必ず実行

電池を保管する場合および廃棄する場合には、テープなどで端子部を絶縁する。

他の電池や金属製のものと混ぜると、破裂や液漏れにより、火災・やけど・失明・炎症の原因になります。



注意

「傷害を負う可能性が想定される」内容です。

電源



禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントを使用しない。火災・感電・やけどの原因になります。



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、火災・感電の原因になります。

設置



禁止

不安定な場所や振動する場所に置かない。

落下や転倒により、けが・故障・破損の原因になります。



禁止

本製品を設置する際は、放熱を妨げない。

- ・ 布やテーブルクロスをかけない
- ・ じゅうたんやカーペットなどの上には設置しない
- ・ 風通しの悪い狭いところへは押し込まない

機器内部に熱がこもり、火災・故障・誤動作の原因になります。

本製品の周囲に上30cm、左右20cm、背面20cm以上のスペースを確保してください。



必ず実行

次のマニュアルで指示された方法で設置する。

- ・ 取扱説明書

落下や転倒により、けが・故障・破損の原因になります。



必ず実行

地震のときは、本製品から離れる。

落下や転倒により、けがの原因になります。



禁止

塩害や腐食性ガスが発生する場所、油煙や湯気の多い場所に設置しない。

落下や転倒により、けが・故障・破損の原因になります。



必ず実行

本製品を持ち運ぶ場合は、必ず2人以上で行う。

本製品を無理に持ち上げると、腰を痛める原因になります。また、本製品が落下して、周囲の方々のけが・故障・破損の原因になります。



必ず実行

本製品を移動する前に、必ず電源スイッチを切り、すべての接続ケーブルを外す。

ケーブルに足や手を引っかけると、落下や転倒により、けが・故障・破損の原因になります。

接続



必ず実行

外部機器を接続する場合は、各機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続する。

説明に従って正しく取り扱わない場合、けが・故障の原因になります。

聴覚障害



禁止

長時間、大音量で聴かない。

聴覚障害の原因になります。異常を感じた場合は、医師にご相談ください。



必ず実行

ほかの機器と接続する場合は、すべての電源を切った上で行う。

聴覚障害・感電・故障の原因になります。



必ず実行

電源を入れる前や使用を始める前には、音量(ボリューム)を最小にする。電源を切る前に、必ず本製品や接続している機器の音量(ボリューム)を最小にする。

聴覚障害・故障の原因になります。



必ず実行

オーディオシステムの電源を入れるときは、本製品をいつも最後に入れる。電源を切るときは、本製品を最初に切る。

聴覚障害・故障の原因になります。

お手入れ



必ず実行

お手入れをする前に、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電の原因になります。

取り扱い



禁止



このラベルが貼られている場合は、その面に触れない。

使用中に熱くなることがあり、やけどの原因になります。



禁止

本製品のすき間に金属や紙片などの異物を入れない。

火災・感電・故障の原因になります。



禁止

小さな部品は、乳幼児の手の届くところに置かない。

お子様が誤って飲み込むおそれがあります。



禁止

次のような、無理な力がかかることをしない。

- 本製品の上に乗る
- 本製品の上に重いものを載せる
- 本製品を重ねて置く
- ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加える

けが・故障・破損の原因になります。



禁止

接続されたケーブルを引っ張らない。

落下や転倒により、けが・故障・破損の原因になります。

使用上のご注意

ご注意

製品の故障、損傷や誤動作、データの消失を防ぐため、お守りいただく内容です。

電源

- 本製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。[⏻](スタンバイ/オン)で本機をオフ(スタンバイ)状態にしても微電流が流れています。

設置

- 周囲の環境によっては電話、ラジオ、テレビなどに雑音が入る場合があります。その場合は、本製品の設置場所、向きや周囲の環境を変えてください。
- 次のような場所に設置しないでください。
 - 直射日光の当たる場所
 - 極端に温度が高い場所や低い場所
 - ほこりが多い場所故障・変形・動作不良の原因になります。
- 周囲温度が極端に変化するなど、結露が発生するような場所には設置しないでください。結露した状態で使用すると故障の原因になります。結露しているおそれがある場合は、電源を切らずに数時間放置し、結露がなくなってから使用してください。

取り扱い

- 本製品上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。パネルの変色・変質の原因になります。

お手入れ

- お手入れのときは、乾いた柔らかい布を使用してください。ベンジン、シンナー、洗剤、化学ぞうきんなどで製品の表面を拭かないでください。変色・変質の原因になります。

重要なお知らせ

お知らせ

使用時の注意点や機能の制約、知っておくと便利な補足情報です。

製品に搭載されている機能

- 本製品は、日本国内専用です。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

廃棄・譲渡

- 本製品を譲渡する際は、本文書と付属品も合わせて譲渡してください。
- 本製品および付属品を廃棄する際は、各自治体の廃棄処分方法に従ってください。
- 使用済みの電池は、各自治体で決められたルールに従って廃棄してください。

目次

本機の特長.....	1	再生.....	10
付属品	1	再生する	10
各部の名称とはたらき	2	好みの音に調節する	11
前面（フロントパネル）.....	2		
背面（リアパネル）	4	パソコンに保存された音楽の再生	
リモコン	6	（USB DAC 機能）	12
		故障かな？と思ったら	14
接続	8	主な仕様	17
外部機器とスピーカーを接続する	8		
電源コードを接続する	9		

はじめに

※ ヒントは知っておくと便利な補足情報を記載しています。

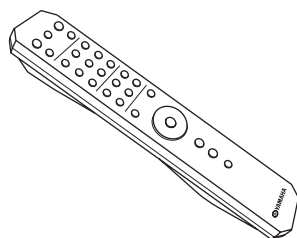
本機の特長

- ◆ DSD ネイティブ再生に対応した USB DAC 機能（※12 ページ）
- ◆ AUTO POWER STANDBY 機能による自動節電（※4 ページ）
- ◆ CD の音声を原音により忠実に再生する CD DIRECT AMP 機能搭載（※11 ページ）
- ◆ 付属のリモコンによるヤマハ製チューナー / CD プレーヤーの操作（※6 ページ）
- ◆ 音の純度を高める PURE DIRECT 機能（※11 ページ）
- ◆ サブウーファー出力端子装備（※8 ページ）

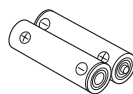
付属品

ご使用前に、付属品を確認してください。

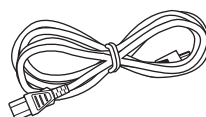
リモコン



単 3 乾電池（2 本）

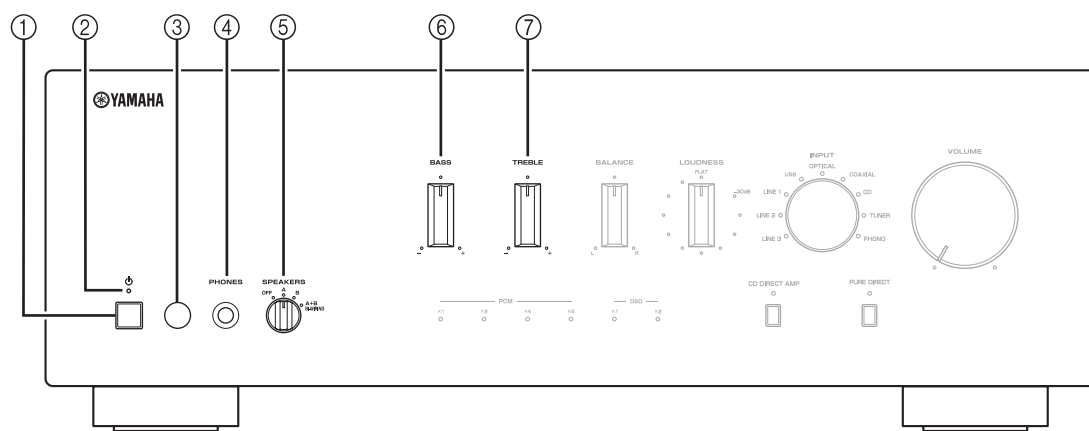


電源コード



各部の名称とはたらき

前面（フロントパネル）



① ㊦（電源）スイッチ

本機の主電源をオンとオフで切り替えます。

ご注意

本機の主電源がオフでも、少量の電力を消費しています。

② パワーインジケーター

インジケーター	状態
点灯	本機の電源がオンの状態を示します。
暗い点灯	本機がスタンバイの状態を示します。 スタンバイモードについては 6 ページをご覧ください。
消灯	本機の電源がオフの状態を示します。

③ リモコン受光部

リモコンからの信号を受信します。

④ ^{フォンス} PHONES 端子

ヘッドホンを接続します。

⑤ ^{スピーカース} SPEAKERS セレクター

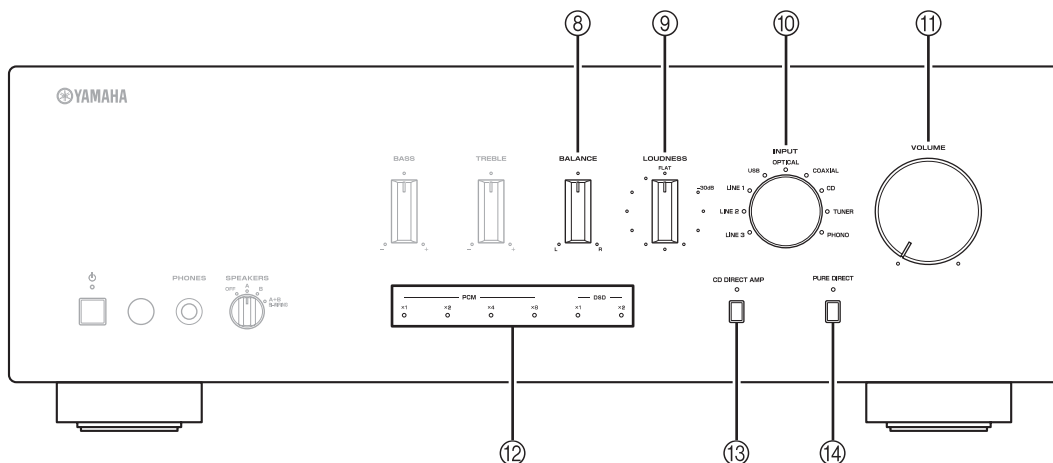
セレクター位置	スピーカー
OFF	スピーカーを両組ともオフにします。
A または B	A または B 端子のどちらかに接続された組のスピーカーをオンにします。
A+B BI-WIRING	スピーカーを両組ともオンにします。

⑥ ^{バス} BASS(低音) 調節つまみ

低音特性を増減します。0 の位置でフラットになります。
コントロール範囲：－ 10 dB ～ +10 dB

⑦ ^{トレブル} TREBLE(高音) 調節つまみ

高音特性を増減します。0 の位置でフラットになります。
コントロール範囲：－ 10 dB ～ +10 dB



⑧ バランス **BALANCE** 調節つまみ

左右のスピーカーのオーディオ出力バランスを調整することで、スピーカーの位置や室内の条件による音のアンバランスを補正します。

ご注意

BALANCE 調節つまみを左チャンネル (L) または右チャンネル (R) の終端まで回すと、反対側のチャンネルは消音します。

⑨ ラウドネス **LOUDNESS** 調節つまみ

音量によらず、すべての音域を自然に再生できるように調節します (11 ページ)。

⑩ インプット **INPUT (入力) セレクター / インジケーター**

再生する入力ソースを選択します。選択した入力ソースのインジケーターが点灯します。



入力ソース名はリアパネルの端子名に対応していません。

⑪ ボリューム **VOLUME** コントロール

音量を調節します。

⑫ **USB DAC インジケーター**

本機の USB 端子に PCM または DSD 信号が入力されると点灯します (13 ページ)。

⑬ ダイレクト アンプ **CD DIRECT AMP ボタン / インジケーター**

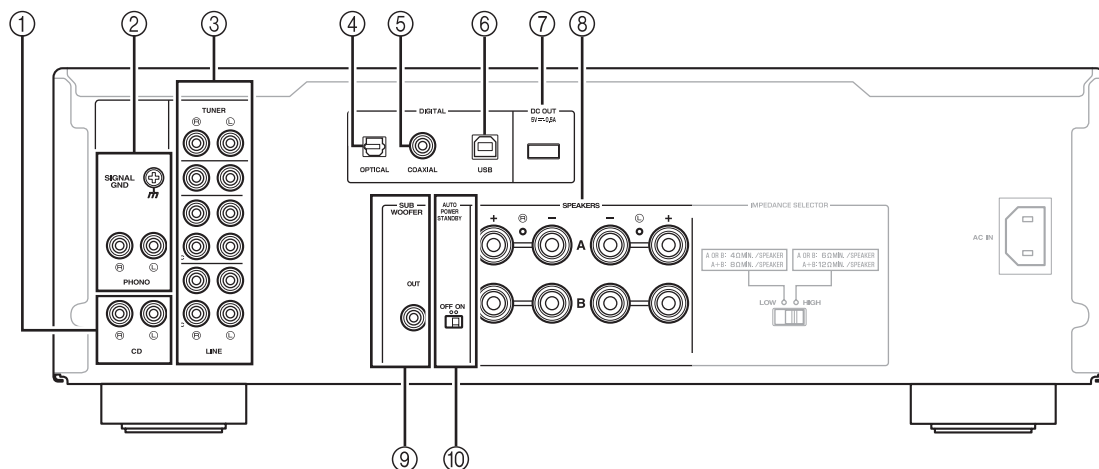
CD プレーヤーからの信号を優先的に最高品質で再生します (11 ページ)。

CD DIRECT AMP 機能がオンのとき、インジケーターが点灯します。

⑭ ピュア ダイレクト **PURE DIRECT ボタン / インジケーター**

すべての入力ソースにおいて、ストレートで高音質な音楽再生が楽しめます (11 ページ)。
PURE DIRECT 機能がオンのとき、インジケーターが点灯します。

背面（リアパネル）



① CD 入力 端子

CD プレーヤーを接続します (P.8 ページ)。

② ^{フォノ}PHONO 端子 / ^{シグナル}SIGNAL GND 端子

MM カートリッジを備えたレコードプレーヤーを接続します (P.8 ページ)。

③ 音声入出力端子

チューナーなどの外部機器を接続します (P.8 ページ)。

④ ^{デジタル}DIGITAL (OPTICAL) (光デジタル) 端子

光デジタル出力端子のある機器を接続します (P.8 ページ)。

⑤ ^{デジタル}DIGITAL (COAXIAL) (同軸デジタル) 端子

同軸デジタル出力端子のある機器を接続します (P.8 ページ)。

⑥ ^{デジタル}DIGITAL (USB) (Type B) 端子

パソコンを接続します (P.8 ページ)。

⑦ ^{アウト}DC OUT 端子

ヤマハ製 AV アクセサリーに電源を供給するための端子です。
詳しくは、AV アクセサリーの取扱説明書をご覧ください。

⑧ ^{スピーカー}SPEAKERS A/B 端子

1 組または 2 組のスピーカーを接続します (P.8 ページ)。

⑨ ^{サブウーファー}SUBWOOFER OUT 端子

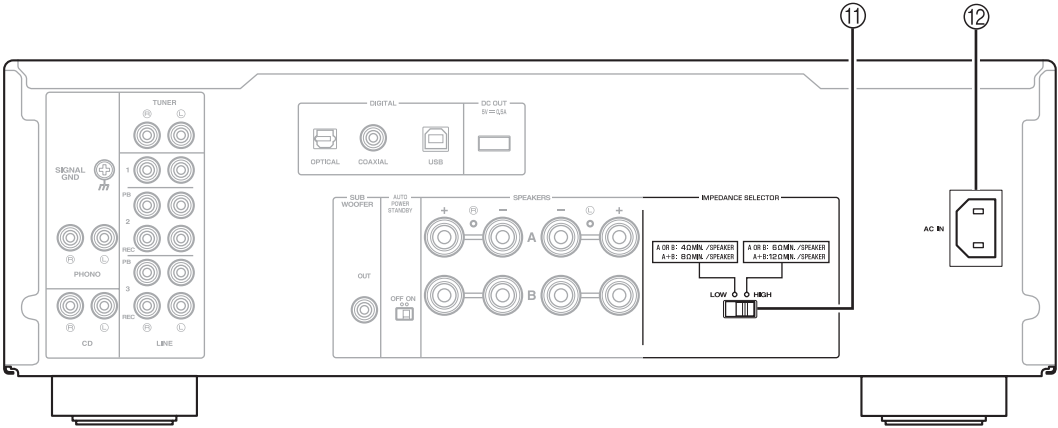
アンプ内蔵サブウーファーを接続します (P.8 ページ)。



SUBWOOFER OUT 端子は、90Hz 以上の周波数をカットして音声信号を出力します。

⑩ ^{オート}AUTO POWER STANDBY スイッチ

スイッチ位置	状態
ON	電源がオンのとき、何も操作されない状態が 8 時間続いた場合、自動的にスタンバイになります。
OFF	自動的にスタンバイになりません。



⑪ インピーダンス セレクター IMPEDANCE SELECTOR スイッチ

接続するスピーカースистেমのインピーダンスに応じて切り替えます。

重要

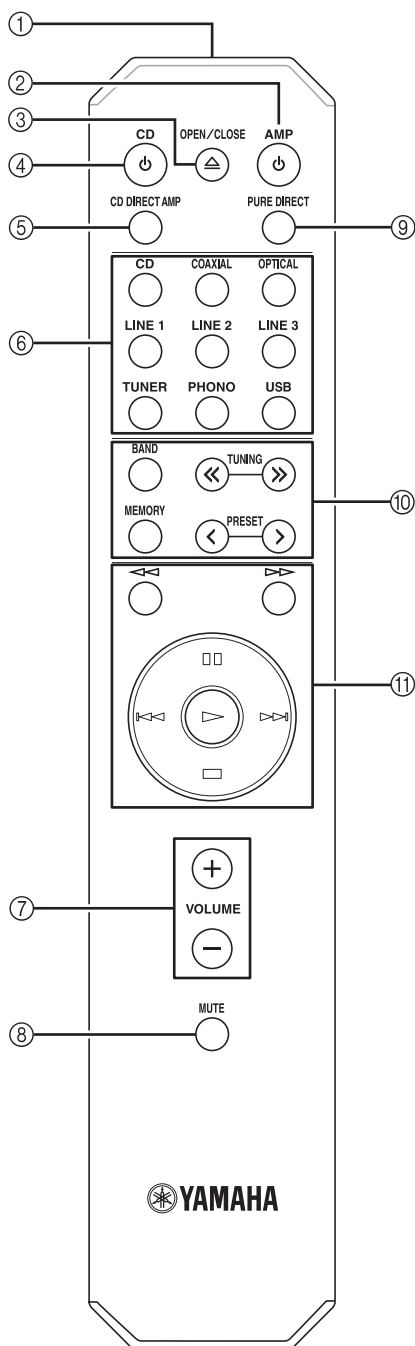
本機の電源がオンのときには、IMPEDANCE SELECTOR スイッチを切り替えないでください。本機が故障する原因になります。IMPEDANCE SELECTOR スイッチが確実に選択されていない場合は、電源プラグを抜き、スイッチが止まる位置までスライドさせてください。お手持ちのスピーカースистেমのインピーダンスに応じてスイッチの位置を選択してください。

⑫ AC IN 端子

付属の電源コードを接続します（P.9 ページ）。

スピーカー 接続	スピーカー インピーダンス	スイッチ 位置
A または B	6Ω 以上	HIGH
	4Ω 以上	LOW
A と B	12Ω 以上	HIGH
	8Ω 以上	LOW
バイワイヤ リング	6Ω 以上	HIGH
	4Ω 以上	LOW

リモコン



① 赤外線送信部

リモコン操作用の赤外線信号を送信します。

② ^{アンプ} AMP

本機の電源をオンとスタンバイで切り替えます。

③ ^{オープン} OPEN / ^{クローズ} CLOSE

ヤマハ製 CD プレーヤーのディスクトレイを開閉します。CD プレーヤーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

【ご注意】

ヤマハ製の CD プレーヤーであっても、一部操作できない機器や機能があります。

④ ^{CD} CD

ヤマハ製 CD プレーヤーの電源をオンとスタンバイで切り替えます。CD プレーヤーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

【ご注意】

ヤマハ製の CD プレーヤーであっても、一部操作できない機器や機能があります。

⑤ ^{ダイレクト} CD DIRECT AMP ^{アンプ}

CD プレーヤーからの信号を優先的に最高品質で再生します (11 ページ)。

⑥ 入力選択ボタン

再生する入力ソースを選択します。



入力ソース名はリアパネルの端子名に対応しています。

⑦ ^{ボリューム} VOLUME +/-

音量を調節します。

⑧ ^{ミュート} MUTE

音量が現在のレベルから約 20dB 低下します。再度押すとオーディオ出力の音量は元のレベルに戻ります。リモコンの VOLUME +/- を押すと、ミュート機能は解除されます。MUTE 時は INPUT セレクターで選択したフロントパネルの INPUT インジケーターが点滅します。

⑨ ^{ピュア} PURE DIRECT ^{ダイレクト}

すべての入力ソースにおいて、ストレートで高音質な音楽再生が楽しめます (11 ページ)。

⑩ ヤマハ製 チューナー 操作ボタン

ヤマハ製のチューナーを操作します。
チューナーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

バンド
BAND

FM/AM を切り替えます。

チューニング
TUNING << / >>

ラジオ周波数を切り替えます。

メモリー
MEMORY

FM/AM ラジオ局をプリセット（登録）します。

プリセット
PRESET < / >

プリセットした FM/AM ラジオ局を選びます。

⑪ ヤマハ製 CD プレーヤー操作ボタン

ヤマハ製の CD プレーヤーを操作します。
CD プレーヤーの取扱説明書もあわせてご覧ください。



早戻し



早送り



一時停止



頭出し（再生中の曲）



頭出し（次の曲）



再生

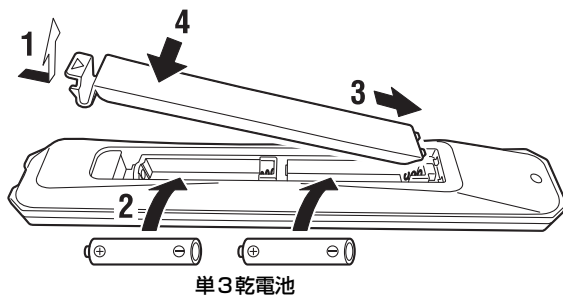


停止

■ ご注意

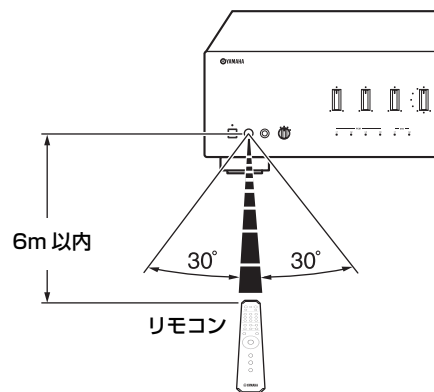
ヤマハ製のチューナーまたは CD プレーヤーであっても、一部操作できない機器や機能があります。

■ 乾電池を入れる



■ リモコンの使いかた

操作するときは下記の範囲で本機のフロントパネルのリモコン受光部にまっすぐに向けてください。



■ ご注意

- 本機とリモコンの間に障害物を置かないでください。
- リモコンの操作可能範囲が極端に狭くなってきたら、すべての乾電池を新しいものに交換してください。

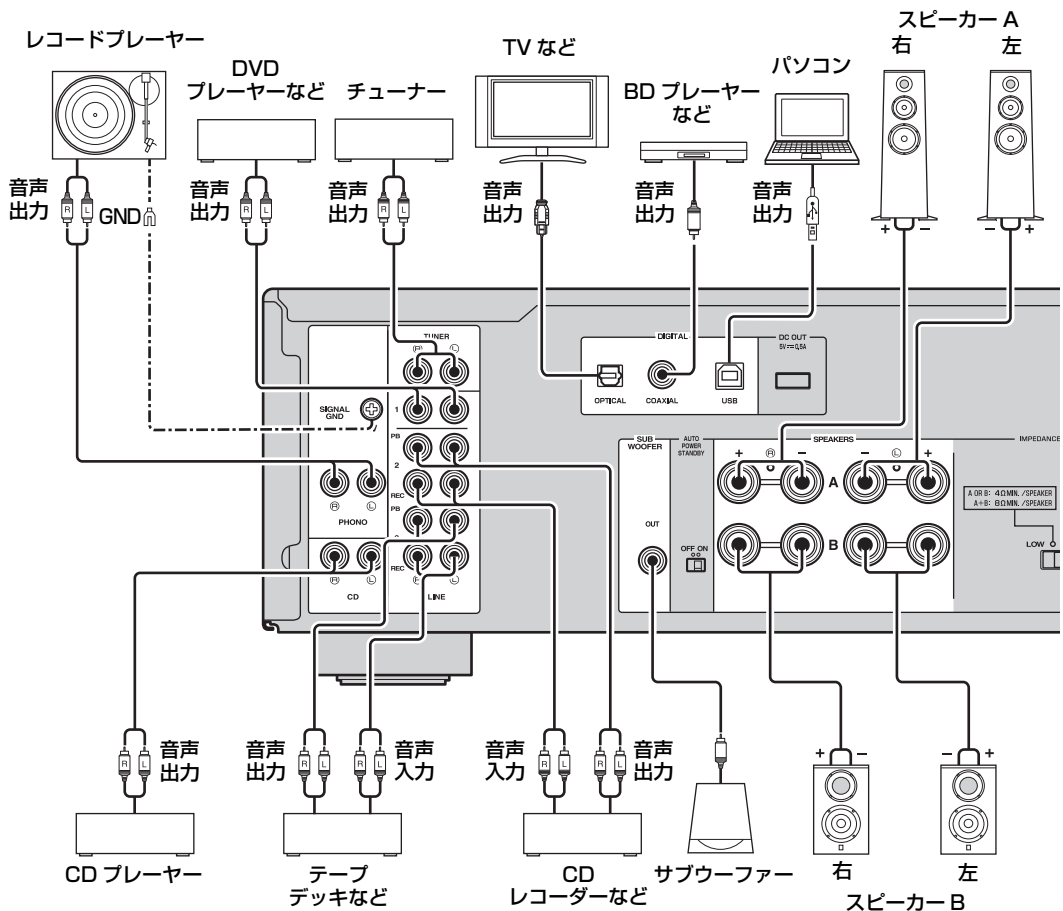
接続

外部機器とスピーカーを接続する

左チャンネル (L)、右チャンネル (R)、+ (赤)、- (黒) をよく確認して、正しく接続してください。接続が間違っていると、スピーカーから音が出ない場合があります。また、極性が間違っていると、音が不自然に聞こえたり低音が聞こえないことがあります。その他の機器に付属している取扱説明書もご覧ください。他の機器との接続には端子の形状に応じて RCA タイプのピンケーブル、光ファイバーケーブル、USB ケーブルを使用してください。

重要

すべての接続が終わるまで、本機や本機に接続した機器の電源コードを家庭用コンセントに差し込まないでください。



本機の DIGITAL (OPTICAL/COAXIAL) 端子に入力できるデジタル信号は、PCM 信号のみです。対応する PCM 信号の詳細は 17 ページをご覧ください。



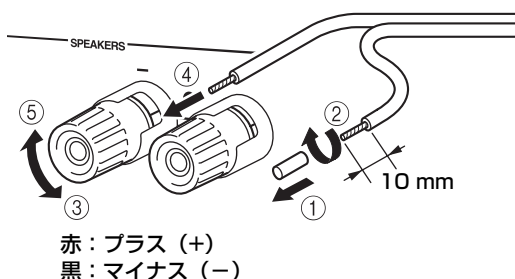
- 本機には MM カートリッジを備えたレコードプレーヤーを接続できます。
- レコードプレーヤーのアースを SIGNAL GND 端子に接続すると、雑音を低減することができます。ただし、レコードプレーヤーによっては、SIGNAL GND 端子に接続しないほうが雑音が少ない場合があります。(SIGNAL GND 端子は安全アースではありません。)

■ REC 端子を使用する場合

- INPUT セレクターで LINE 2（もしくは LINE 3）を選択した場合は、LINE 2 REC（もしくは LINE 3 REC）へは出力されません。
- VOLUME、BASS、TREBLE、BALANCE、LOUDNESS または CD DIRECT AMP 機能や PURE DIRECT 機能の設定は録音には影響しません。

■ スピーカーケーブルを接続する場合

- ① スピーカーケーブル先端の絶縁部（被覆）を約 10 mm はがす。
- ② 芯線をしっかりよじる。
- ③ スピーカー端子を左に回して、ゆるめる。
- ④ スピーカー端子の穴に、スピーカーケーブルの芯線を差し込む。
- ⑤ スピーカー端子を右に回して、しめる。

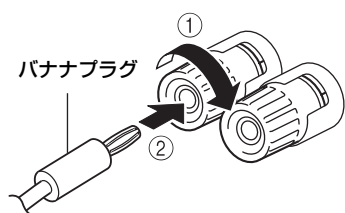


重要

- 接続するスピーカーのインピーダンスに合わせて、IMPEDANCE SELECTOR スイッチを設定してください（P5 ページ）。
- スピーカーケーブルの裸線部は、他のスピーカーケーブルの裸線部または本機の金属部分とは接触させないでください。本機やスピーカーが損傷することがあります。

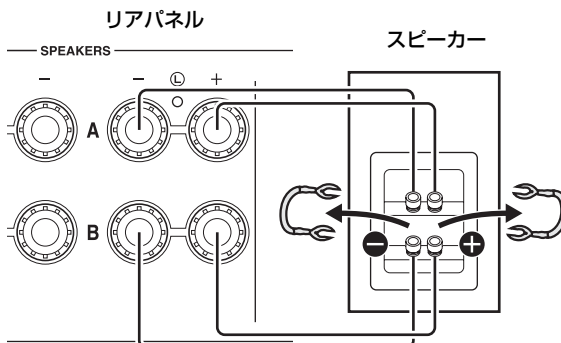
■ バナナプラグを使用する場合

- ① 端子を強くしめる。
- ② バナナプラグを端子に差し込む。



■ バイワイヤリング接続

バイワイヤリング接続に対応したスピーカーの場合、以下のように接続することでスピーカーのウーファー部とツイーター/ミッドレンジ部を独立して駆動し、濁りのない中高音を楽しむことができます。



もう一方のスピーカーも同様に接続します。

ご注意

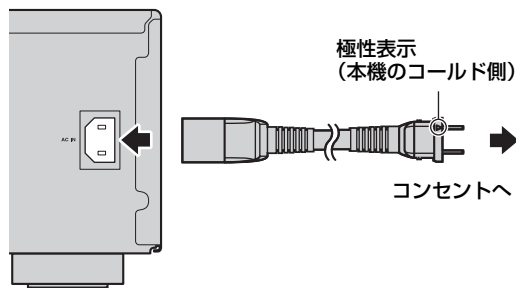
バイワイヤリング接続をするときは、必ずスピーカー側の端子に装着されたショールディング用金具やケーブルを取り外してください。詳しくは、スピーカー付属の取扱説明書をご覧ください。



バイワイヤリング接続を利用するには、フロントパネルの SPEAKERS セレクターを A+B BI-WIRING にします。

電源コードを接続する

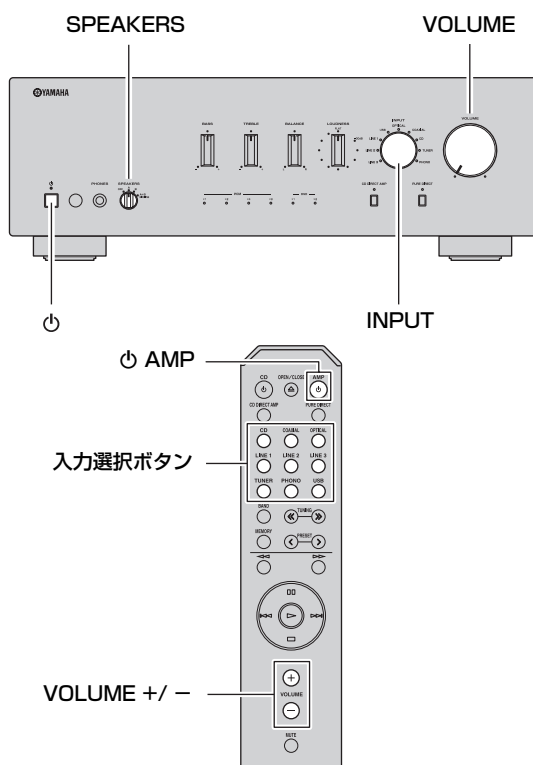
すべての接続が終了したら、付属の電源コードを本機の AC IN 端子に差し込み、家庭用 AC100V、50/60Hz のコンセントに電源プラグを接続します。



- 付属の電源コードの▽マークは極性（本機のコード側）を示しています。
- 接続するときの電源プラグの向き（極性）によって音質が変わることがあります。お好みの向きで接続してください。

再生

再生する



1 突然大きな音で再生しないようにフロントパネルの VOLUME コントロールを、反時計回りにいっぱいまで回す。

2 フロントパネルの **⏻** (電源) スイッチを押してオンにする。

3 フロントパネルの INPUT (入力) セレクターを回して (またはリモコンの入力選択ボタンを押して)、入力ソースを選択する。
選択した入力のインジケーターが点灯します。

⚠
パソコンに保存された音楽を再生したいときは、入力ソースとして USB を選択してください (p.12 ページ)。

4 フロントパネルの SPEAKERS セレクターを回して、SPEAKERS A、B または A+B BI-WIRING を選択する。

⚠
バイワイヤリング接続をする場合や、2 組 (A と B) のスピーカーを同時に使用する場合は、SPEAKERS セレクターを A+B BI-WIRING にしてください。

5 入力ソース機器を操作して再生を開始する。

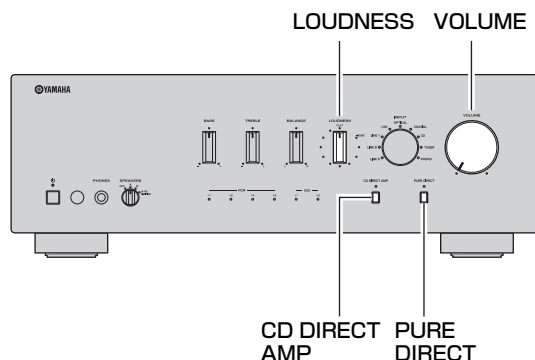
6 フロントパネルの VOLUME コントロールを回して (またはリモコンの VOLUME + / - を押して)、音量を調節する。

⚠
必要に応じて、フロントパネルの BASS、TREBLE、BALANCE、LOUDNESS または CD DIRECT AMP 機能や PURE DIRECT 機能でお好みの音に調節することができます。

7 使用後は、フロントパネルの **⏻** (電源) スイッチを押してオフにする。

⚠
リモコンの **⏻** AMP を押すと、本機の電源をスタンバイに切り替えることができます。もう一度押すとオンに戻ります。

好みの音に調節する



■ 小さい音量でも低音と高音を聞きやすくする (LOUDNESS)

中音域の音量を下げ、音量が小さいときに低音と高音が聞こえにくくなる人間の聴感特性を補うことで、小さい音量でも自然な音を楽しむことができます。

重要

LOUDNESS が調節されているときに、CD DIRECT AMP 機能や PURE DIRECT 機能をオンにした場合、入力信号は LOUDNESS 調節機能をバイパスするため、音量が急に大きくなります。耳やスピーカーをダメージから守るため、**CD DIRECT AMP ボタンや PURE DIRECT ボタンを押す前に LOUDNESS の調節値を必ず確認し、FLAT 以外に調節されている場合は音量を下げるなどの処置をしてください。**

1 LOUDNESS調節つまみをFLATの位置にする。

2 フロントパネルの VOLUME コントロールを回して (またはリモコンの VOLUME + / - を押して)、普段音楽をお聴きになるときの最大の音量まで上げる。

3 適度な音量になるまで、LOUDNESS 調節つまみを反時計回りに回す。

■ 高音質で再生する (PURE DIRECT)

PURE DIRECT 機能をオンにすると、音声入力信号が使用していない機能の回路をバイパスし、その回路への電源供給を停止することでノイズを低減します。そのため、すべての入力ソースにおいて、ストレートで高音質な音楽再生を楽しむことができます。

PURE DIRECT 機能がオンのとき、インジケータが点灯します。

ご注意

PURE DIRECT 機能がオンのときは BASS、TREBLE、BALANCE や LOUDNESS の各調節機能は無効になります。

■ CD を最高品質で再生する (CD DIRECT AMP)

CD 以外の入力ソースを選択時、CD DIRECT AMP 機能をオンにすると、自動的に入力ソースが CD に切り替わり、クリアな音で CD の再生を楽しむことができます。

CD DIRECT AMP 機能

より原音に忠実な音を提供するために、CD 再生に不要な回路への電源供給を停止し、入力信号を正相と逆相に変換して電子ボリュームにバランス伝送します。これにより以下の効果をもたらします。

- S/N 比の改善
- 外来ノイズキャンセリング
- 歪みの低減

ご注意

- CD DIRECT AMP 機能がオンのときは BASS、TREBLE、BALANCE や LOUDNESS の各調節機能は無効になります。
- CD DIRECT AMP 機能を使うには、CD プレーヤーを必ず CD 入力端子に接続してください。
- 以下の操作をすると、CD DIRECT AMP 機能はオフになります。
 - INPUT (入力) セレクターで CD 以外の入力ソースを選択する
 - PURE DIRECT 機能をオンにする

パソコンに保存された音楽の再生 (USB DAC 機能)

本機の DIGITAL (USB) 端子にパソコンを接続すれば USB DAC として機能し、パソコンに保存された音楽を再生できます。

■ 対応している OS

本機と USB 接続できる パソコンの OS は以下のとおりです。(2021 年 8 月現在)

Windows の場合 : Windows 10 (32/64 ビット)

Mac の場合 : macOS 11 / 10.15 / 10.14 / 10.13 / 10.12

ご注意

- ・上記以外の OS での動作は保証いたしません。
- ・パソコンの構成や環境によっては、上記の OS で使用しても動作しない場合があります。
- ・Mac は、OS 標準のドライバーで動作しますが、動作しない場合は以下の「専用ドライバーをインストールする」の手順 1 記載の URL にアクセスし、Mac 用のドライバーをインストールしてください。

■ 専用ドライバーをインストールする

(Windows のみ)

本機とパソコンを接続する前に、専用のドライバーをパソコンにインストールしてください。

- 1 下記の URL にアクセスし、「Yamaha Steinberg USB Driver」を検索する。

専用ドライバーソフトダウンロードページ
URL : <https://download.yamaha.com/>

- 2 ダウンロードしたファイルを解凍し、実行する。

- 3 ダウンロードした「Yamaha Steinberg USB Driver」をパソコンにインストールする。

詳しくは、ダウンロードしたドライバーに添付されているインストールガイドをご覧ください。

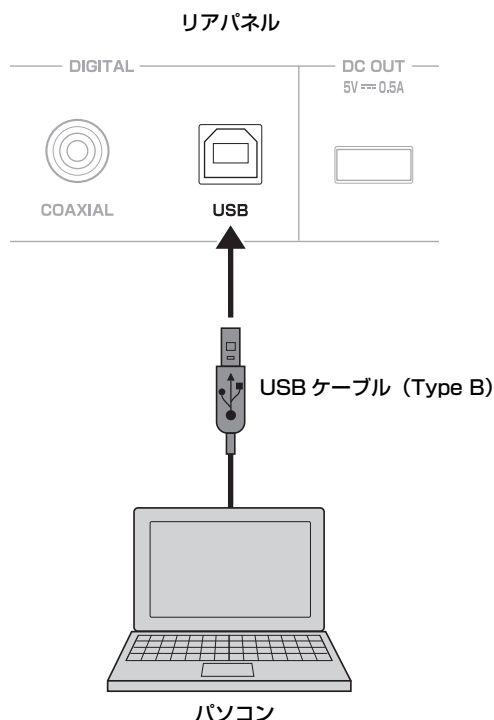
- 4 インストールが終了したら、起動中のすべてのアプリケーションを終了する。

ご注意

ドライバーをインストールする前にパソコンに本機を接続すると、正しく動作しない場合があります。

■ 本機をパソコンに接続する

- 1 市販の USB ケーブルを使って本機をパソコンに接続する。



- 2 パソコンのオーディオ出力先を「Yamaha Steinberg USB DAC」に設定する。

Windows OS の場合 :

スタートメニュー→設定→システム→サウンド [出力]

Mac OS の場合 :

システム環境設定→サウンド→ [出力] タブ

設定方法は OS により異なる場合があります。詳しくは、お使いのパソコンメーカーにお問い合わせください。



伝送可能なサンプリング周波数は以下のとおりです。

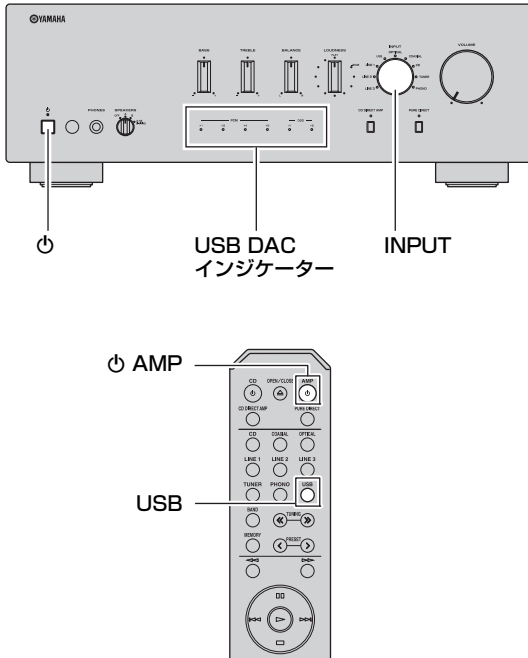
PCM : 44.1kHz/48kHz/88.2kHz/96kHz/
176.4kHz/192kHz/352.8kHz/384kHz


DSD : 2.8224MHz/5.6448MHz

ご注意

「Yamaha Steinberg USB Driver」は、改良のため予告なしにバージョンアップすることがあります。詳細および最新情報については、「専用ドライバーソフトダウンロードページ」でご確認ください。

■ パソコン内の音楽を再生する



- 1 USB ケーブルで本機とパソコンを接続する。
- 2 パソコンの電源を入れる。
- 3 フロントパネルの  (電源) スイッチを押してオンにする。
- 4 フロントパネルの INPUT (入力) セレクターを回して (またはリモコンの入力選択ボタンを押して)、USB を選択する。
- 5 パソコンのオーディオ出力先を「Yamaha USB DAC」に設定する。

Windows OS の場合：

スタートメニュー→設定→システム→サウンド
[出力]

Mac OS の場合：

システム環境設定→サウンド→ [出力] タブ

設定方法は OS により異なる場合があります。
詳しくは、お使いのパソコンメーカーにお問い合わせください。

6 パソコンで音楽ファイルを再生する。

パソコンから本機に音楽信号が入力されると、再生している曲のサンプリング周波数にあわせてフロントパネルの USB DAC インジケーターが以下のように点灯します。

インジケーター		周波数
PCM	×1	44.1/48kHz
	×2	88.2/96kHz
	×4	176.4/192kHz
	×8	352.8/384kHz
DSD	×1	2.8224MHz
	×2	5.6448MHz

■ 音量の調整のしかた

より良い音質を得るためには、パソコンの音量を最大に設定し、本機の音量を最小から少しずつ大きくし、好みの音量に調整してください。

ご注意

- パソコンを USB ケーブルで接続して音楽を再生しているときに、USB ケーブルを抜いたり、本機の電源をオフにしたり、入力を切り替えたりしないでください。誤動作の原因になります。
- 音楽再生時のパソコンの操作音を消したい場合は、パソコンの設定を変更してください。
- 音楽ファイルを正しく再生できない場合は、パソコンを再起動し、前述の手順で操作し直してください。
- 本機または本機のリモコンから、パソコンに保存された音楽を操作することはできません。パソコンに保存された音楽の操作は、パソコン側で行ってください。

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は下記の点をご確認ください。対処しても正常に動作しない場合や、下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源を切り、電源プラグを家庭用コンセントから抜いてからお買い上げ店または巻末の「お問い合わせ窓口」にお問い合わせください。

症状	原因	対策	参照 ページ
本機の電源が入らない。	電源プラグが正しく接続されていない。	電源プラグを家庭用コンセントに正しく接続してください。	9
	フロントパネルの⓪（電源）スイッチがオフのときに、リモコンの⓪ AMP を押している。	フロントパネルの⓪（電源）スイッチをオンにしてください。	2
	インピーダンスの設定が小さすぎる。	正しいインピーダンスのスピーカーを使用してください。	5
	ショートなどにより保護回路が作動した。	スピーカーケーブルが互いに接触していないことを確認して、再度本機の電源を入れてください。	9
	本機内部の回路に異常がある。	電源プラグを抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ販売店にお問い合わせください。	—
本機を使用中に突然電源がオフになり、パワーインジケータが点滅する。	スピーカーケーブルが互いに接触したり、本機リアパネルの金属部分に接触している。	スピーカーケーブルを正しく接続し、本機の電源をもう一度オンにしてください。すべての INPUT インジケータが点滅し、音量が自動的に下がります。音量が最小まで下がると、最後に選択されていた INPUT インジケータが点灯します。本機が起動したら音量を徐々に上げ、音が正常に出るか確認してください。	9
	スピーカーが故障している。	正常なスピーカーに交換し、本機の電源をもう一度オンにしてください。すべての INPUT インジケータが点滅し、音量が自動的に下がります。音量が最小まで下がると、最後に選択されていた INPUT インジケータが点灯します。本機が起動したら音量を徐々に上げ、音が正常に出るか確認してください。	—
	過大入力をしたため、または音声出力を上げ過ぎたため、保護回路が作動した。	フロントパネルの VOLUME コントロールで音量を下げて、本機の電源をもう一度オンにしてください。	—
	本機内部の温度が上昇したため、保護回路が作動した。	約 30 分本機内部の温度が下がるのを待ち、フロントパネルの VOLUME コントロールで音量を下げて、もう一度本機の電源をオンにしてください。また、本機の放熱を妨げない場所に設置してください。	—
	インピーダンスの設定が間違っている。	IMPEDANCE SELECTOR スwitch をスピーカーに合わせて正しく設定してください。	5
	IMPEDANCE SELECTOR スwitch が正しい位置にない。	本機の電源をオフにし、IMPEDANCE SELECTOR スwitch が止まる位置までスライドさせてください。	5
	本機が外部電気ショック（落雷または過度の静電気）を受けた。	本機の電源をオフにして家庭用コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください。	—
	本機の内部の回路に異常がある。	電源プラグを抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ販売店にお問い合わせください。	—

症状	原因	対策	参照 ページ
音が出ない。	MUTE が有効になっている。	リモコンの MUTE を押すか、VOLUME コントロールを操作して MUTE を解除してください。	6
	ケーブルが正しく接続されていない。	ステレオピンケーブルおよびスピーカーケーブルを正しく接続してください。症状が改善されない場合は、ケーブルに問題がないか確認してください。	8
	入力機器の再生が停止している。	入力機器の電源を入れ、再生を開始してください。	10
	入力が正しく選択されていない。	フロントパネルの INPUT (入力) セレクターで入力を選択し直してください。	10
	SPEAKERS セレクターが OFF になっている。	SPEAKERS セレクターを A、B または A+B BI-WIRING にしてください。	10
	DIGITAL (OPTICAL/COAXIAL) 端子に接続した機器の出力音源設定が PCM に設定されていない。	本機の DIGITAL (OPTICAL/COAXIAL) 端子は PCM 音源のみ再生できます。接続機器の出力音源を PCM に設定してください。	17
音声が突然出なくなった。	AUTO POWER STANDBY 機能が作動した。	他の原因によるものではないことを確認し、本機の電源をもう一度オンにしてください。AUTO POWER STANDBY 機能を無効にするには、リアパネルの AUTO POWER STANDBY スイッチを OFF にしてください。	4
片側のチャンネルの音声がほとんど出ない。	再生機器やスピーカーが正しく接続されていない。	接続を確認してください。症状が改善されない場合は、ケーブルに問題がないか確認してください。	8
	BALANCE 調節が正しく設定されていない。	BALANCE 調節を適切に設定してください。	3
低音の再生不良。	スピーカーやアンプの +/− が逆に接続されている。	+/− を確認して、正しく接続してください。	9
ハム音が出る。	ステレオピンケーブルが正しく接続されていない。	ステレオピンケーブルを正しく接続してください。症状が改善されない場合は、ケーブルに問題がないか確認してください。	8、9
	レコードプレーヤーのアースが SIGNAL GND 端子に接続されていない。	アースコードを本機の SIGNAL GND 端子に接続してください。	8
音量を上げることができない、または音が歪んでいる。	本機の LINE 2 REC 端子または LINE 3 REC 端子に接続している機器の電源が入っていない。	接続されている機器の電源を入れてください。	—
本機に接続している CD プレーヤーにヘッドホンを接続して聴いていると、音が歪む。	本機の電源がオフまたはスタンバイになっている。	本機の電源を入れてください。	—
音量が小さい。	MUTE が有効になっている。	リモコンの MUTE を押すか、VOLUME コントロールを操作して MUTE を解除してください。	6
	LOUDNESS を調節している。	VOLUME コントロールで音量を下げてから、LOUDNESS 調節つまみを FLAT の位置に戻して VOLUME コントロールを再調節してください。	11
レコードの再生音が小さい。	レコードプレーヤーを PHONO 以外の端子に接続している。	PHONO 端子に接続してください。	8
	MC カートリッジが装着されたレコードプレーヤーで再生している。	MM カートリッジを備えたレコードプレーヤーを本機に接続してください。	8
BASS、TREBLE、BALANCE、LOUDNESS の調節が効いていない。	CD DIRECT AMP 機能または PURE DIRECT 機能がオンになっている。	CD DIRECT AMP 機能または PURE DIRECT 機能をオフにしてください。	11

症状	原因	対策	参照 ページ
パソコンで本機が認識 されない	動作保証していない OS を搭載した パソコンを接続した。	動作保証されている OS を搭載したパソコン を接続してください。	12
	USB ケーブルが正しく接続されて いない。	USB ケーブルを正しく差し込み直してくださ い。	12
	パソコンまたはアプリケーションの 出力が、ミュートまたは消音に設定 している。	パソコンまたはアプリケーションのミュートま たは消音設定を解除してください。	—
雑音がする	音楽ファイル再生中に、パソコンで 他のアプリケーションを起動した。	音楽ファイル再生中に、パソコンで他のアプリ ケーションを起動すると、音が途切れたり、ノ イズが発生する場合があります。音楽ファイル 再生中は、他のアプリケーションを起動しない でください。	—
音楽ファイルが再生で きない	音楽ソフトを起動した状態で本機と パソコンを接続したり、本機の入力 ソースを USB に切り替えたりした ため、音楽データが正しく再生でき なかった。	本機とパソコンを接続し、本機の入力ソースを USB に切り替えてから、パソコンの音楽ソフト を起動して音楽ファイルを再生してくださ い。	12
	専用のドライバー「Yamaha Steinberg USB Driver」が正しく インストールされていない。	もう一度「Yamaha Steinberg USB Driver」 を正しくインストールし直してください。	12
	本機で認識できない音声信号が入力 された。	本機に対応する音声信号を入力してください。	12

主な仕様

オーディオ部

・定格出力 (8Ω、20Hz～20kHz、0.019% THD)	100W + 100W
(6Ω、20Hz～20kHz、0.038% THD)	120W + 120W
・ダイナミックパワー (IHF) (8/6/4/2Ω)	140/170/220/290W
・パワーバンド (0.04% THD、50W、8Ω)	10Hz～50kHz
・ダンピングファクター (SPEAKERS A) 1kHz、8Ω	240 以上
・実用最大出力 (JEITA) (1kHz、10% THD、8Ω)	145W
(1kHz、10% THD、6Ω)	170W
・入力感度 / 入力インピーダンス PHONO (MM)	3.0mV/47kΩ
CD 他	200mV/47kΩ
・最大許容入力 PHONO (MM) (1kHz、0.03% THD)	45mV 以上
CD 他 (1kHz、0.5% THD)	2.2V 以上
・出力電圧 / 出力インピーダンス REC OUT	200mV/1.0kΩ 以下
SUBWOOFER OUT (カットオフ周波数：100Hz)	3.5V/1.2kΩ
・PHONES 端子出力 / 出力インピーダンス CD 他 (入力 1kHz、200mV、8Ω)	470mV/470Ω
・周波数特性 CD 他 (20Hz～20kHz)	0±0.5dB
CD 他、PURE DIRECT オン (10Hz～100kHz)	0±1.0dB
・RIAA 偏差 PHONO (MM)	±0.5dB
・全高調波歪率 PHONO (MM) - REC OUT (20Hz～20kHz、2.5V)	0.03% 以下
CD 他 - SPEAKERS (20Hz～20kHz、50W、8Ω)	0.019% 以下
・S/N 比 (IHF-A ネットワーク) PHONO (MM) (5mV 入力ショート)	82dB 以上
CD 他、PURE DIRECT オン (200mV 入力ショート)	99dB 以上
CD DIRECT オン	104dB 以上
・残留ノイズ (IHF-A ネットワーク)	40μV
・チャンネルセパレーション CD 他 (5.1kΩ 入力ショート、1kHz)	65dB 以上
CD 他 (5.1kΩ 入力ショート、10kHz)	50dB 以上
・トーンコントロール特性 BASS 可変幅 (20Hz)	±10dB
ターンオーバー周波数	400Hz
TREBLE 可変幅 (20kHz)	±10dB
ターンオーバー周波数	3.5kHz

・コンティニュースラウドネスコントロール 最大補正率 (1kHz)	－ 30dB
・USB (Type B) 端子	USB2.0 対応
・対応サンプリング周波数 (OPTICAL/COAXIAL) PCM (2-ch)	192/176.4/96/88.2/48/44.1/32kHz
・対応サンプリング周波数 (USB) PCM (2-ch)	384/352.8/192/176.4/96/88.2/48/44.1kHz
DSD	2.8224/5.6448MHz
・対応ビット長 (PCM)	32*/24/16 ビット
* Windows パソコンから USB 端子への入力のみ対応	

総合

・電源電圧	AC100V、50/60Hz
・消費電力	270W
・待機電力	0.5W
・寸法 (幅 × 高さ × 奥行き)	435 × 152 × 387mm
・質量	12.1kg

※ 本文書は、発行時点での最新仕様で説明しています。最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■お客様コミュニケーションセンター オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口



0570-011-808

受付：月～金曜日 10:00～17:00

(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

<https://jp.yamaha.com/support/>

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ヤマハ修理ご相談センター



0570-012-808

受付：月～金曜日 10:00～17:00

(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-4830

FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越、東海地域にお住まいのお客様
(03) 5762-2125

北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄地域にお住まいのお客様
(06) 6649-9340

修理品お持ち込み窓口

受付：月～金曜日 10:00～17:00

(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

*お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター

〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1

JMT京浜 E棟 A-5F

FAX (03) 5762-2125

西日本サービスセンター

〒556-0011 大阪市浪速区難波中1丁目13-17

ナンバ辻本ビル7F

FAX (06) 6649-9340

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証期間

製品に添付されている保証書をご覧ください。

● 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

● 補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく

サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。

本機を未永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。

摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例

ポリウムコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！



愛情点検

こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズが変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感ずる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中区中沢町10-1

